

「初年次教育に関する講演会」報告

学術教養センター 山川 修、菊沢 正裕

2008年5月30日(金)の午後1時30分～3時に、関西国際大学、高等教育研究開発センター長の岩井洋教授をお招きし、「初年次教育の現状と課題：関西国際大学の事例を中心にして」というテーマで講演会を実施した。参加者は、福井キャンパスで23人(学内19人、学外4人)、小浜キャンパスで4人の合計27人であった。

講演内容は、まず、初年次教育とは何であるかという概論から始まり、関西国際大学で実施されている初年次教育の具体的な説明へと進んだ。関西国際大学が取り組んでいる、初年次教育のスキーム、その特徴等は、今後初年次教育の体系を考えていかななくてはならない、本学にとって大変参考となるものであった。

約1時間の講演の後、30分程度の質疑応答を行ったが、初年次教育に関する様々な質問が出され有意義な講演会であったと考えている。

この講演会を受け、今後、ひと月に1回程度学内で、各部局を交え、学内の演者に初年次教育に関して考えるところを話してもらい議論を行う「初年次教育を考える会」を開催したいと考えている。さしあたって、6月19日(木)の午後から第1回目の会合を開催する予定である。

(山川 修 記)

質疑応答

Q 殆どの教員がアドバイザー制度に携わるのですか？

A そうです。1、2年、あるいは3、4年と連続して受け持ち、1人の先生が約40名の学生にアドバイスをします。

Q 初年次教育を始めて8年。どのような効果がありましたか。

A 10%台だった中退率を1桁台に下げました。ポートフォリオは評価の改善や学習支援のほか、就職先に公表し、利用されています。

Q 補習授業は、どなたが、いつおやりになりますか。

A 学習支援センターの教員が担当します。センターの専任教員が2コマ、一般の先生はオフィスアワーを兼ねて2コマ、そのほか元高校教員をアドバイザーとして雇用しています。

Q 学習意欲をださせる方法を教えてください。

A アクティブラーニング、サービスマーケティングなどの中で、地域で活動することや身体を動かすことで興味や意欲を持たせます。

Q ボランティア活動をどのようにとりこまれていますか。

A 地域貢献活動や地域交流イベントを企画実施する授業を、初年次からカリキュラムに取り込んでいます。春学期は地域の大人と交流し、秋学期は子供と交流します。今後、この授業を、海外活動に拡張する方法を考えています。

Q 学生の能力差が拡大していますが、対応策は？

A 語学には能力別編成を導入しています。他の科目では、「能力」と「やる気」の2項目の強弱に基づく4分類のクラス分け法を現在模索しています。

Q 本学では教養ゼミ、自由特論、学術特論をやっています。貴学の学習技術+キャリアプランニングに続く基礎演習は、教養学としての位置づけはありますか？

A 基礎演習は、学習技術の定着と専門分野への入門です。キャリアプランニングを春学期、基礎演習を秋学期に履修します。同一教員が担当し、新聞記事を使いながら、担当教員の専門を生かしたトピックを用います。(講演の後確認したところ関西国際大学では専門学部の教員が一般教育を担当している。教養学としての位置づけに乏しい。)

Q ポートフォリオのメリットはなんですか？ また、全員がきっちりできますか？

A 質の担保は教育次第です。気長にやるしかありません。

Q 本学では来年度から導入ゼミを開講する予定です。ベンチマークをどうつくるかについてアドバイスをいただけますか。

A 初年次教育では、コミュニケーション力、情報整理力、情報表現力など9項目のベンチマークを設定し、一覧表にしています。一般教育や専門教育についても同様です。ベンチマークは、一般テーマではなく、専門のテーマを通して身につくと考えられるオーストラリアや英国のジェネリックスキル方式を目指したものになっています。(菊沢 正裕 記)